

●ユウネスしばたについて、病児保育について

Q.

・ユウネスしばたの運営について

あまりにも休館日が多く、かつ春休みにも関わらず、開館時間も通常通りであることは、小学生をはじめとした子どもたちの居場所としては成立していないのではないのでしょうか。昨日も今日も午前中から小学生たちが開いていない玄関前でたずずんでいました。また、毎度毎度、記入させられる利用者カードはあまりにも非効率ではないかとおもいます。こういった理由であの方法を取られているのかわかりませんが、資源の無駄なのではないかと疑問におもいます。週末は1時間毎の入れ替え制をとられていますが、その度に記入を求められます。また、週末の運営について、人数制限のため断られることも多いのですが（安全のため人数規制をかけるのは理解しています）、途中帰られる方々がおり、施設内の利用者が数組になっていても、その際に来館された方々には利用を断っている姿もよくみえます。小さいお子さんを連れただご家族が寒空の下、ずっと待っています。小さなお子さんはなぜ遊べないのかを親御さんに何度も何度も聞いています。そういった様子をもても職員の皆さんはなにも感じないのでしょうか。なぜ、もっと臨機応変に対応されないのでしょうか。もっといい運営の方法はないのでしょうか。閉館時間15分前から職員の方々は準備をはじめ、窓際に座っている見守りの方々の頭上を一言もないままカーテン閉めるくらいまで帰宅に一生懸命です。新潟市の児童センターの様子はご存知でしょうか。職員の皆さんはこどもたちに声をかけながら見守りをしてくださっています。ユウネスしばたの職員の方々は部屋にいただけです、扉もしまっています。あまりにもずさんな運営だと感じます。職員の働き方のための休館日なのであればシフトを組む、募集を行う、などの工夫を。運営が困難であるならば、新潟市のように外部に業務委託してはいかがでしょうか。ほかの児童センターをもっと参考にしてみたいかがでしょうか。

・病児保育、病後児保育について

病児保育、病後児保育について、利用の拡充をお願いします。1日の利用枠が少なく、使いたいときに使えない現状があります。病児保育を使えないときの母親の嘆きを想像してください、死活問題です。こういった問題を提起した場合、いつも【できない、やらない理由】が回答としてでていますが、どうしたら実現可能であるか、を考えていただきたいです。ほかの自治体では保育園・学校⇔病児保育の無料送迎も実施しています。いまや7割以上が共働き家庭、核家族です。どうぞ現実の課題を解決ねがいます。

（令和6年3月受付）

A.

最初に、ユウネスしばたの運営についてお答えいたします。

ユウネスしばたをご利用いただいているとのこと、誠にありがとうございます。

さて、ご指摘をいただきましたユウネスしばたの開館時間については、平日の開館を午後1時からとし、午前中は市内の保育園に貸し出しております。保育園への貸し出しは、普段、年齢や体格が異なる多数の子どもたちが同じ空間で遊んでいるのに比べ、同じ保育園の年齢が近い子どもたちだけで遊ぶことができ、ゆったりと過ごせることからご好評をいただいております。貸し出しの回数も伸びておりますことから、継続したいと考えております。一方で、学校の長期休業期間の平日にユウネスしばたを午前中から開館することについては、担当課に検討するよう指示いたしました。

また、週末や祝日などの混雑する日には、子ども30人を定員とした1時間毎の入替制を実施しておりますが、一目見て館内の利用者数が大幅に定員を下回っていることが分かるような場合はお待ちいただいている方に入館できる旨をお声がけすることや整理券について分かりやすく説明するなど、今以上に丁寧な対応をするよう併せて担当課に指示いたしました。

利用カードへの記入につきましては、担当課の職員が他市の同様の施設の状況など、大掛かりな経費をかけなくてもできそうな事例をお教えいただいたとも伺っておりますので、参考とさせていただきたいと考えております。

今回のご指摘を受け、先に記載した以外にも運営方法を見直し、職員には常に見られているということを意識させ、お客様にとって気持ちよく使える施設となるよう、運営してまいりたいと考えております。

続きまして、病児・病後児保育の利用の拡充についてお答えします。

病児・病後児保育施設の特性上、利用が集中する感染症の流行期や、隔離を要するお子さんをお預かりする場合などは、予約が取りづらくなる課題があることは、私も十分承知をしています。

一方で、予約していたお子様の病気が軽快したことによるキャンセルも度々発生していることもあり、現在、1日の平均利用人数は、定員を下回っている状況です。

市といたしましては、病児・病後児保育の利用定員の増員と、キャンセル待ちへの対応を検討するよう委託先と協議を続けており、一人でも多くの児童を受け入れられるようにしてまいりたいと考えております。

病児・病後児保育は、保育と医療のスタッフを必要とし、利用者の有無や人数に関わらず一定の人件費が発生してしまう経営上の課題から、新たに事業者を確保し施設を増やすことは容易ではないことをご理解ください。

現時点では、定員増や新たな施設の増設の予定はありませんが、保護者の皆様の育児と仕事の両立を支援するため、引き続き利用ニーズ、利用状況を注視しながら、利便性の向上と増設の必要性について検討してまいります。

(令和6年4月30日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。